

令和2年度 学校評価実施報告書

学校名 (西陵中 学校)

教育目標	
≪ 正しく 仲よく 逞しく ≫ 基盤的な学力と自ら律する力を備えた、調和のとれた生徒を育成する	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し <ul style="list-style-type: none"> ・基盤的な学力の定着を目指して、授業改善や家庭学習習慣定着の取組をすすめた。数字に表れている検査結果からみる学力は、全市平均と比較すると厳しい結果であったが、教科によっては平均を超えるものもあった。どの学年でも中低位層が多いことが大きな要因となり平均点は低かった。授業には落ち着いて取り組んでいる。学力向上を重点におくことを継続する。 ・生徒たちは社会ルールを遵守して、思いやりの気持ちをもって行動できている。行事等に工夫して取り組み、学年・学級の特別活動や道徳の指導も協働して計画的に取り組むことができ、心や体をバランスよく育成することは概ね達成することができた。外国人生徒の学校生活や人間関係は順調で、多様な価値観を認め合う学校風土ができている。 ・不登校生徒や遅刻欠席の多い生徒に対して、担任を中心に家庭訪問等の取組は出来ているが、十分な成果はあがっていない。SC や総合育成支援員等との連携をより深め、チーム学校での取組を充実させて取り組んでいく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあって、西陵祭体育の部などの行事や部活動の大会が中心になったのは、やむを得ないものの残念だった。代替行事や試合ができてよかった。 ・授業にはよく取り組んでいるようで、今後も規律を保って授業を大切にしていってほしい。家庭学習を習慣づける指導の工夫が必要だろう。学校と家庭の連絡をていねいに続けていくようお願いしたい。学校運営協議会や地域で、できる事や要望があれば言ってもらい協力していきたい。 ・生徒数が減少して小規模となり、部活動等は少人数で困っていると思う。頑張っている生徒が多いのでしっかり指導していってほしい。ラグビー部の京都府選手権大会優勝は、コロナ禍にあって、地域にとっても明るいニュースになった。 ・学校が楽しいと感じている生徒や保護者が多くて安心している。学校に来にくい生徒や家庭への支援を大切に続けてほしい。 ・素直な生徒が多く、声をかけると気持ちよく挨拶が返ってくる。元気にあいさつできる生徒を育てたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年10月16日	学校運営協議会
最終評価	令和3年3月4日	学校運営協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

授業改善を通して、基盤的な学力の定着を図る。

具体的な取組

- ・「学習の手引き」を作成し、生徒が見通しを持った学びができるようにする。
- ・授業の始めに「今日の目標」を提示し、授業の終わりに「今日のまとめ（振り返り）」を行う。
- ・授業規律の確立を図る。
生徒はベル着、教師はベル授業開始を守る。
授業の最初と最後にあいさつをきちんと行う。その際、服装も整える。
机には必要なものだけを出す、忘れ物がないか確認、忘れた場合どうするのか指示を出す。
- ・配布したプリントは、その場でファイリングさせる。
- ・定期テストに活用問題を出題する。
- ・朝読書に継続して取り組む。
- ・教科会を積極的に行い、常により良い授業改善に努める。
学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査の結果等を分析・活用して、授業改善をすすめる。
- ・授業分析シートを活用して、授業改善を行う。
- ・研究授業を実施する。(6月教科別研修, 11月学年別研修, 2月合同研修)
- ・評価・評定に関する研修を一層進める。
- ・家庭学習プリントの実施、指導、基礎テストの実施により、家庭学習習慣の定着を図る。
5科の実施、終学活時に配布、翌朝回収、未提出者の確認と手立て、基礎テストの実施
- ・授業内でも、家庭学習につながる課題を積極的に実施する。
- ・夏季休業中・定期テスト前の学習会を計画的に実施する。
- ・9年間を通した学力の向上をめざした小中一貫教育を推進するため、合同研修を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学習確認プログラム及び全国学力・学習状況調査の分析結果。
- ・授業分析シートの活用、校内研究や教科会による授業改善の取組。
- ・生徒に対する授業アンケート（生徒による授業評価）の結果。
- ・生徒及び保護者アンケートの結果。
「毎日家庭学習プリントに取り組んでいますか」
「家庭学習に取り組んでいますか」
「読書の習慣が身についていますか」

中間評価

各種指標結果

- ・学習確認プログラムにおいて、3年生は、全市と比較した場合の指数は100に対して、総合で93と厳しい状況ではあるが、指数100の教科もある。2年生は、総合指数は95となっており、理科と英語は100を超えて平均以上になっている。1年生は、参考資料からみると3年生・2年生よりもさらに厳しい状況にある。どの学年も、中低位層が多いことが、平均値に強く影響している。
- ・教科会の活性化や授業分析シートの活用が必要である。
- ・生徒・保護者アンケートは、重要度と実現度に答える形式にして、意識の把握・分析に努めている。
- ・アンケート項目「家庭学習プリントに取り組んでいますか」に対して、生徒の肯定的回答（よく出

来ている・大体出来ている)は85%, 保護者79%。また、「授業を理解できていますか」への肯定的回答は85%, 保護者76%であるが、「家庭学習に取り組んでいますか」に対する肯定的回答は生徒72%, 保護者62%であった。どの項目も重要度は90%を超えているが、実現度になると低くなる。

- ・「読書の習慣が身についていますか」に対する生徒の肯定的回答は41%, 保護者24%であった。学校での朝読書には、ほとんどの生徒がよく取り組んでいるが、家庭で読書をしない生徒が多い。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・毎日の家庭学習プリントに取り組ませて、家庭学習の定着を目指している。出来ていない生徒は学校で指導、支援して必ずやり遂げさせるようにしている。プリント以外の家庭学習ができる生徒が少なく、学習時間も短いかほとんどしない生徒が多い。
- ・どの学年、学級も授業規律が整っており、ベル着をはじめ授業中の不規則発言や私語がほとんどなく、熱心に授業に取り組んでいる。
- ・朝読書の時間は、ほぼすべての生徒が集中して取り組んでいる。
- ・学習確認プログラムの結果は、厳しい状況にある。教科による差が大きい結果となっている。中低位層が多いので基礎基本の定着への取組が必要な一方で、上位層を増やす授業改善も必要である。
- ・授業や定期テストに記述式問題を出題するなど、全教科で意識して取り組んでいる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・個別生徒の理解状況を細かく確認し、必要な支援に取り組み、基礎基本の定着を図る。
- ・家庭学習プリントの取組を継続し、授業と家庭学習を繋げる工夫を進め、家庭学習習慣の確立を図る。
- ・教員の授業力向上のため、教科会の活性化を図り、授業分析シートの効果的な活用を工夫する。
- ・授業における生徒の主体的な活動の場を増やし、生徒が意欲的に取り組める授業づくりを進める。
- ・図書館教育の推進に努め、教科での図書館活用等を通して、読書への関心や意欲を高めていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・家庭学習プリントや家庭学習課題の内容と実施状況、生徒・保護者アンケートの結果。
- ・教科会の活動内容と各教科における授業改善の取組、個々の教員の指導力の向上状況。
- ・図書館の活用状況。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・学校から実態等を説明して、きびしい学力状況にあることを理解いただいた。
- ・アンケート結果は、7月の状況であり、休校から間があまりないので授業はていねいにゆっくりすすめていることも影響しているものになっている。
- ・まず「学校が楽しい」ことが大切だと考える。1年生が中学校生活に慣れてきているようで安心している。
- ・どの生徒も意欲的に取り組める授業をすすめてほしい。勉強の苦手な生徒も学校での授業にしっかり取り組めるように、がんばってほしい。
- ・9年間を見据えて、小中の取組を連携してすすめていきましょう。
- ・中学校の学習に関わる事がほとんどないので、できる事やしてほしいことがあれば言ってもらい協力していきたい。

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート項目「家庭学習プリントに取り組んでいますか」に対して、生徒の肯定的回答（よく出来ている・大体出来ている）は 86%，保護者 78%，また、「授業を理解できていますか」への肯定的回答は生徒 84%，保護者 70%であるが、「家庭学習に取り組んでいますか」に対する肯定的回答は生徒 73%，保護者 59%であった。 時間割内に教科会の時間を設定し、教科会の活性化と授業改善をすすめた。各教科の取組を全体化・見える化して、他教科や個々の教員の取組に活かすことまではできなかった。 「読書の習慣が身についていますか」に対する生徒の肯定的回答は 39%，保護者 32%であった。学校での朝読書には、ほとんどの生徒がよく取り組んでいるが、そのとき限りで、家庭での読書習慣が定着しない生徒が多い。総合的な学習の時間における図書館の活用が増えてきた。
<p>自己評価</p>	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日の家庭学習課題の取組は、学校の取組として年間を通じて展開できた。与えられた宿題はほとんどの生徒が取り組めるようになってきている。課題の内容と授業との繋がりを深めることが課題である。基礎基本をすべての生徒に定着させる目的で、定期テスト前の基礎テストを実施した。 小中一貫教育における授業の交流が、コロナ禍が影響して停滞している。ブロックの小小連携の取組は出来ている。 授業改善や学力低位生徒への支援が、個々の教員に頼るところが大きく、その結果、学習確認プログラムの結果も、学年や教科による差が大きい。学校としての学力状況は厳しい。 来年度からの学習指導要領の完全実施に向けて、評価の在り方に関する研修を一定すすめることができた。より具体的な評価に関する研修が必要である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度当初に、教育目標、生徒・保護者の実態把握、具体的な生徒につけたい力等について明らかにして共通理解を深め、教職員の授業改善の意識を高める。学習指導要領の全面実施にあたって、評価を軸にした研修をすすめる。 教科会を中心に、PDCAサイクルで日々の授業の充実・改善をすすめる。 家庭学習習慣の定着に向けて、毎日の家庭学習課題の取組は継続する。授業と家庭学習を繋げる工夫を各教科ですすめ、全体調整等を研究部で行う。
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一台のタブレットが導入され、ICT 機器を授業で積極的に取り入れている状況を説明して理解いただいた。子どもは慣れるのが早いので、どんどん有効に活用してほしい。一人ずつタブレットで取り組めば、寝ている暇はなくなるだろう。 学校運営協議会で、どのようなことが可能なのか、必要なのかアイデアを出し合っていきたい。小学校では総合的な学習の時間等で、地域の人々と共に学校に協力しているが、中学校への具体的な支援の検討をすすめましょう。 小学校の一次統合や小中一貫教育校の創設を念頭に置いて、小学校から9年間の学習の継続性や発展性について考えて、整えていくことが大事だろう。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

人権尊重の精神を基盤に、自他を大切にす態度の育成と自尊感情の高揚を図る。

具体的な取組

- ・指導の3原則『挨拶・時間・掃除』を通して、規範意識のさらなる育成を図る。
- ・生徒会活動をより充実させ、生徒同士の絆を深め、生徒の自己有用感を向上させる。
- ・いじめ防止に向けた取組指針を徹底する。
- ・道徳授業の持ち回り授業の実施等による指導の充実を図る。
- ・チャレンジ体験やファイナンスパークの取組を通して、キャリア教育を推進する。
- ・人が環境を変え、環境が人を育てることを意識した校内環境整備に努める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒及び保護者アンケートの結果。
 - 「挨拶がしっかりできていますか」
 - 「相手の気持ちを考えて行動していますか」
 - 「ルールを守ろうとしていますか」
- ・道徳授業の状況と生徒の振り返りや感想等の活用に関する教員の認識状況。
- ・チャレンジ体験やファイナンスパークに関するアンケート結果。
- ・人権学習の取組状況と生徒の感想等。

中間評価

各種指標結果

- ・アンケート結果は、肯定的回答が、「挨拶がしっかりできていますか」については生徒 93%・保護者 83%、「相手の気持ちを考えて行動していますか」は生徒 88%・保護者 83%、「ルールを守ろうとしていますか」が、生徒 89%・保護者 87%であった。
- ・休校により道徳の指導計画を見直し、授業を実施している。評価に関する研修も実施して、ポートフォリオも重ねている。
- ・人権学習の指導案を、学年ごとに研修をすすめながら作成作業を行っている。

自己評価

分析(成果と課題)

- ・挨拶や行動、ルールを守ることに、生徒のその重要度への認識が高く、実現度も肯定的回答率は高い。保護者の評価は、生徒の基準よりもやや厳しいと読み取れる。
- ・道徳授業に関しては、学年教員で担任・副担任が分担して、授業づくりや評価をすすめており、協力した実施ができている。内容や評価について、研修をすすめていく。
- ・生徒会活動に生徒は意欲的に取り組んでおり、本部役員選挙への立候補者も多数となった。

分析を踏まえた取組の改善

- ・生徒会活動と連動した挨拶運動等の取組を充実していく。
- ・人権学習や道徳を通して、生徒の実践力を高めていく。
- ・生徒会活動における本部役員の活動は充実しており、代替わり後も継続して取り組んでいく。
- ・チャレンジ体験やファイナンスパークは、来年度を含めた今後の実施について検討する。
- ・規範意識の醸成をさまざまな取組のなかで意識して実践していく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・生徒会本部役員を中心とした生徒会活動の状況。

	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の評価内容や教員の認識状況。 ・生徒，保護者アンケートの推移。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直な生徒が多く，自分から挨拶のできる生徒はあまり多くないが，声をかけるとできる生徒がほとんどである。 ・西陵祭（文化の部）は，どの学年も熱心に取り組み，特に3年生がよく頑張り成功させたことを報告し理解いただいた。 ・地域行事が中止になり，中学生が地域と過ごす機会が少なく残念だ。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧生徒会本部は，創立 40 周年記念の壁面制作に取り組んで立派に完成させた。新本部役員への引継も，しっかり出来た。コロナ禍にあって3年生を送る会等，工夫して取り組むことができた。 ・道徳ではポートフォリオ評価や評価について協働して取り組むことができた。 ・アンケート結果は，肯定的回答が，「挨拶がしっかりできていますか」については生徒 94%・保護者 76%，「相手の気持ちを考えて行動していますか」は生徒 92%・保護者 86%，「ルールを守ろうとしていますか」が，生徒 92%・保護者 84%であった。
自己評価	<p>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習の取組が，年間計画に基づいて実施できた。学年を中心にした指導案作成等の取組を研修会で全体化し，教員の力量や認識を高めることができた。 ・生徒会活動は，コロナ対応を踏まえた取組が展開でき内容の充実も図ることができた。 ・学校生活のさまざまな場面で，活躍したり認められたりする事を，意識的にたくさん作っていき，生徒の自己有用感を高めていくことが必要である。 ・道徳の授業は計画的に実践され，学年を中心に協働して取り組むことができた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントを進め，道徳の授業計画を効果的に立て，授業や行事，生徒会活動等との有機的な繋がりを深めて実施していく。評価についての研究をよりすすめる。 ・自尊感情が豊かな生徒の育成をめざして，個々の生徒が活躍できる場面やそれを仲間や教員が認める機会を大切にしていく。授業や学級活動，部活動などにおける日常の声掛けや褒めることの実践を積み重ねていく。 ・チャレンジ体験やファイナンスパーク等が中止となったことを踏まえて，キャリア教育の全体計画を見直して，充実を図ることが必要である。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく学校に通っている生徒が多く嬉しく思う。学校が楽しくないと思っている生徒への配慮や支援をしっかりとってほしい。 ・相手の気持ちを考えて行動できている意識等は，中間評価から少し上がっていて評価したい。 ・部活動の生徒はよく頑張っており，今年は大会が中止になって残念だが，代替大会等が開催されたのはよかったと思う。 ・生徒，保護者アンケートをみると，おおむね良い結果になっていると思う。 ・言葉遣いやSNSの問題など，心配なことは多い。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

生徒自らが健康で豊かな生活を実現するために、必要な知識と態度の育成を目指す。

具体的な取組

- ・防煙教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室を継続して実施し、正しい知識と自律的な行動ができるよう指導する。
- ・積極的に部活動へ参加することにより、体力と健康管理能力の向上を図る。
- ・集団的な活動や身体表現を通じて、コミュニケーション能力を育成する。
- ・保健だより等での生徒及び保護者啓発により、基本的な生活習慣を確立させる。
- ・性に関する教育を継続して実施し、命を大切に作る心の育成を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒及び保護者アンケートの結果。
「起床・食事・就寝など時間を守っていますか」
- ・部活動への参加率や各部活動の活動状況。
- ・防煙教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室等の実施状況と感想。

中間評価

各種指標結果

- ・アンケート項目「起床・食事・就寝などの時間を守る態度が身についていますか」に対して、肯定的回答は、生徒 72%、保護者 56%であった。
- ・部活動への入部率は、1年生 77%、2年生 74%、3年生 87%であり、部員生徒は熱心に活動している。
- ・ラグビー部は、京都府大会優勝の優れた結果を残した。サッカー部・男子バスケットボール部・女子バスケットボールも公式戦で勝利をあげることが出来るようになっている。
- ・防煙教室や薬物乱用教室、非行防止教室は、年間の教育課程を見直して実施・実施予定である。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・毎日の生活における時間管理に、課題を抱える生徒が多い。基本的な生活習慣の確立に向けた指導が継続して必要である。生徒の携帯所持率は高く、それに伴う使用時間の長さは、これまで同様に大きな課題である。
- ・部活動の運営や指導は、部活動規定や部活動ガイドラインに沿って適切に行われている。外部コーチの活用もすすんでいる。
- ・部活動に所属せずに、学校外のクラブ等で活動する生徒が一定数いるため、入部率はやや下がっている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・保健だよりや食育通信、学校だより等を配布するだけでなく有効に活用して、基本的な生活習慣の確立にむけた指導を行っていく。
- ・遅刻や欠席について、家庭との連絡を引き続き確実に行っていくなかで、基本的な生活習慣の確立について、保護者からの指導について働きかけをすすめる。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・アンケート項目の総合的な結果と分析。
- ・部活動の活動状況と個々の部員生徒の様子。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起床・食事・就寝の習慣がきちんとしているなど、日々の生活習慣を整えることが大切だろう。家庭と協力して指導して欲しい。 ・ラグビー部の優勝はたいへん嬉しく思う。部員が少なくなってきたと聞いて心配だ。 ・西陵文化まつり（地生連行事）が中止になって、とても残念に思っている。 ・部活動の部員数や顧問等の指導・活動状況についてご理解いただいた。
---------	--

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「起床・食事・就寝などの時間を守る態度が身についていますか」に対して、肯定的回答は、生徒 68%・保護者 54%であり、前期から 4 ポイント・2 ポイント下がった。 ・部活動は感染対策を講じた活動ができている。新チームになったことに伴い 2 年生の意欲や責任感が高まった。顧問による部活動の直接指導を学校全体として取り組んでおり、安全対策やコロナ感染対策に努め、一人一人の生徒の状況を把握して指導にあたっている。
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活の確立が大きな課題である。 ・部活動は、顧問の直接指導の下、安全確保とコロナ対策を講じながら活動できている。 ・性教育は講師を招いて実施することが出来、生徒にとって大切な学習になった。 ・防煙教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室等は、休校や学校行事等との調整をして実施することができた。優れた講師のおかげもあり生徒は熱心に取り組めた。コロナ対策から、保護者参観はできなかった。 ・保健だより等を有効に活用して、食事や家庭での生活の安定のために必要な情報や知識の提供を工夫していく。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導は、顧問の直接指導を継続し、生徒の安全や事故防止、感染対策に努める。 ・基本的な生活習慣・規則正しい生活の確立を意識して、保護者との信頼関係の構築と日常的な連携をすすめる。家庭と協力した指導をすすめる。 ・各種教室の充実した内容を継続するとともに、実施時期について他の取組等との日程も踏まえ、効果がより期待される時期での実施について検討・計画する。 ・食育だよりや保健だより等を十分に活用して、学級における終学活等の時間を活かして、生徒の生活安定を図る指導を充実していく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラグビー部が京都府選手権大会で優勝し、地域にとって明るいニュースとなった。 ・部活動の指導の様子や各種大会の中止や代替大会、コロナ対応等について説明し、理解いただいた。 ・家庭生活の安定が大切だ。 ・防煙教室や飛行防止教室、性教育の取組内容等を聞くと、引き続き充実した内容ですすめてほしいと思う。

(4) 学校独自の取組

重点目標
小中一貫教育を推進する。
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none">・三校校長会や小中連携会を定期的で開催し、ブロック内の情報交換や取組の検討・企画調整を行う。・学習確認プログラム、全国学力学習状況調査結果を分析し、課題を明らかにして有効活用する。・小中合同研修会の開催を通して、教職員の資質・能力の向上に努める。・ブロック各校の研究授業に参加し、授業研究を推進して指導力の向上を図る。・中学校授業体験や学校紹介等、小学生と中学生の交流の取組を進める。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none">・小中一貫教育の推進に係る主任会議や合同研修等の実施と内容、教職員の認識状況。・授業研修会の実施と小中交流の取組。・小中一貫した学力分析の結果を生かした取組の改善。

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none">・三校校長会を月1回のペースで定期的で開催して小中一貫教育の推進を図っている。・小中合同研修会や夏季合同研修会が開催できなかったため、各校で校長を中心に小中連携について情報提供や研修をすすめてきた。・秋に実施の各校での授業研修会への参加は自粛した。児童生徒の小中交流会は、1月実施で企画している。	
自己評価	分析(成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none">・年度当初が休校になったことや小中合同の会合が持ちにくい状況から、三校校長会の定期的な開催に止まっているが、校長レベルでは各校の詳しい状況が共有できている。教職員への周知が課題である。・ブロック事務担当者会議が定期的で開催され、就学援助や預り金事務をはじめとした小中連携が充実してきている。・小中一貫教育校創設に向けて、創設協議会やワークショップの開催、PTA代表者会議等、市教委と連携しながら着実に取組がすすんでいる。
	分析を踏まえた取組の改善
<ul style="list-style-type: none">・小中連携については、主任レベルの交流をすすめ、各校に広めていく。・各種調査の結果分析を活用した授業改善等の学力向上の取組をよりすすめる。・児童生徒が交流する行事に計画的に取り組み、児童生徒の自己有用感を高める。	
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
<ul style="list-style-type: none">・三校校長会や主任会議の実施と内容、教職員の認識状況。・児童生徒が交流する取組の内容とその成果。・各校とブロック全体での学力向上の取組の結果と成果。	

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育校創設の取組がすすんでいる。再来年の小学生統合を見据えての交流をよりすすめていく必要があるだろう。 ・小中の連携はとても大切だと考えている。 ・生徒の地域行事等への参加に関して、学校との連携をより密にしていきたいと思います。
---------	---

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三校校長会は、月1回ペースで定期的開催して小中一貫教育の推進を図っている。 ・三校教務主任会は、情報交換や合同行事の企画調整等をすすめることができた。 ・小学6年生対象の中学校紹介・交流会は、コロナ感染対策からZOOMによる開催とした。中学校生徒会本部が充実した内容で企画実施できた。 ・小中一貫教育校創設の一次統合を令和4年度に控え、小小連携の取組が進んでいる。行事の調整や授業研究の交流、教職員の研修等に取り組んだ。
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の2カ月の臨時休業をはじめコロナ感染予防対策等により、小中合同研修会を開催できなかった。 ・年間を通して、三校校長会は定期的開催し、小中一貫教育校の創設に向けた検討も含めて、連携をすすめることができた。 ・ブロック事務担当者会議が定期的開催され、就学援助や預り金事務をはじめとした小中連携が充実してきている。 ・教務主任会は、開催調整が難しく、適宜必要に応じた形で実施した。 ・小中一貫教育校創設に向けて、創設協議会やPTA代表者会議等、市教委と連携しながら着実に取組がすすんでいる。地域と連携して通学路の検討や安全対策について取り組み、創設協議会から関係部署への要望書提出等を行った。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同研修会の開催を年度の早め実施し、内容を具体化して各校・各教員の実践にむすびつけていく。 ・ブロック内での授業参観等へ教員が参加できる条件を整えて、交流と指導力向上を図る。 ・三校校長会の定期的な開催を継続し、各校やブロックの実態把握や情報交換を行い、各校に持ち帰って教職員の意識を高める。9年間につけたい力やそのための取組の具体化を図り、各校での取組と交流を推進する。 ・教務主任、研究主任会の開催を計画的にすすめ、学力向上を軸にした取組を発展させる。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会として、小中一貫校創設に向けて学校を応援していく。 ・小学校の一次統合が近づいてきているので、小小連携をより進めていくことが大事。 ・今年は地域行事がほとんど中心になって残念だった。今後も、小中学生が参加できるよう学校行事を調整してほしい。中学生の力を借りたいものもあるので、引き続き協力をお願いしたい。

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標
生徒と向き合う時間や自己研鑽の時間を確保し、教育活動の質的向上と教職員の健康維持を図る。
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none">・ 会議の効率化をすすめ、時間を区切った開催にする。・ センターサーバ等によるデータ管理と活用をすすめて、仕事の効率を高める。・ 校務支援員や部活動指導員の活用を図る。・ 電話対応時間を午後7時30分までとし、8時までには退校する。・ 統一時刻閉鎖日を水曜日として、午後7時までには退校する。・ 働き方改革に関する研修を実施し、教職員の意識を高める。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none">・ 教職員の時間外勤務時間の状況。・ 個別面談等による教職員の意識把握。・ 校務支援員や部活動指導員の活用状況。

中間評価

	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none">・ 働き方改革に関する教職員の意識は一定高まり、自己の時間管理を意識して時間外勤務時間を減らしている教職員が増えている。・ 時間外勤務時間の多い教員が、固定してきている傾向にある。・ 校務支援員は教職員に好評であり、印刷や配布物作成・配架等、大いに活用している。
自己評価	分析 (成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none">・ 働き方改革に関して、教職員の意識は高まり、時間外勤務時間の減少という成果もみられる。・ 校務支援員は、教職員の負担軽減につながっている。・ 電話対応時間や退校時刻に関して、保護者や地域の理解は得られていると思われる。留守電の設定等に対して、クレーム等はこれまで学校に入っていない。・ 個々の教職員の意識や課題について、管理職が十分に理解する機会を確保し、仕事の平準化や効率化を組織としてすすめることが必要である。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none">・ 個々の教職員の意識や勤務状況の把握をより丁寧にすすめ、課題を整理し改善していく。・ 校務支援員について、今後もより有効に活用していく。・ 学校全体として教職員の負担感も考慮して、仕事の平準化を図る。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none">・ 時間外勤務の実態と教職員の意識の状況。・ 校務支援員の活用状況。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none">・ 働き方改革について、これまでの取組や現状を説明し理解いただいた。・ 人材確保のためにも働き方改革は必要だとの意見をいただいた。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の時数は、10月が最大となったが、11月以降は減少してきた。 ・時間外勤務が多い教職員はほぼ固定されている。 ・周りに合わせて遅くまで職場に残っている教職員はほとんどいなくなり、自分のペースで仕事にあたっている。 ・校務支援員が、積極的に教職員に声をかけてくれるので、教職員も仕事が頼みやすく、多いに活用できている。
<p>自己評価</p>	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の縮減に関しての教職員の意識は高まっている。時数を意識して仕事をするようにしている教職員がほとんどとなっている。 ・秋の部活動の大会がある時期は、時間外勤務時数が大きく増える結果となった。 ・働き方改革に関する保護者・地域の理解や学校運営協議会の理解が得られている。 ・職員会議の時間設定に取り組み、教職員の運営協力もすすんだ。 ・校務支援員の配置と活用は、効果をあげている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校閉鎖時刻を明示して、時間を意識した働き方をより推進する。 ・管理職が、個々の教職員の意識や課題について十分に理解する機会を確保し、仕事の平準化や効率化をすすめる。 ・時間割内に設定している会議時間の確保や運営等の工夫を継続する。 ・校務支援員を最大限に活用できるよう、個々の教職員が仕事や依頼等を計画的にできるように助言していく。 ・部活動指導員や技術指導者の活用をすすめる。
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この数年進めている働き方改革の必要性やそれをすすめることによって、今後の優秀な教員確保につながるということについて理解をいただいている。 ・先生たちには元気で働いてほしいとの意見をいただいた。